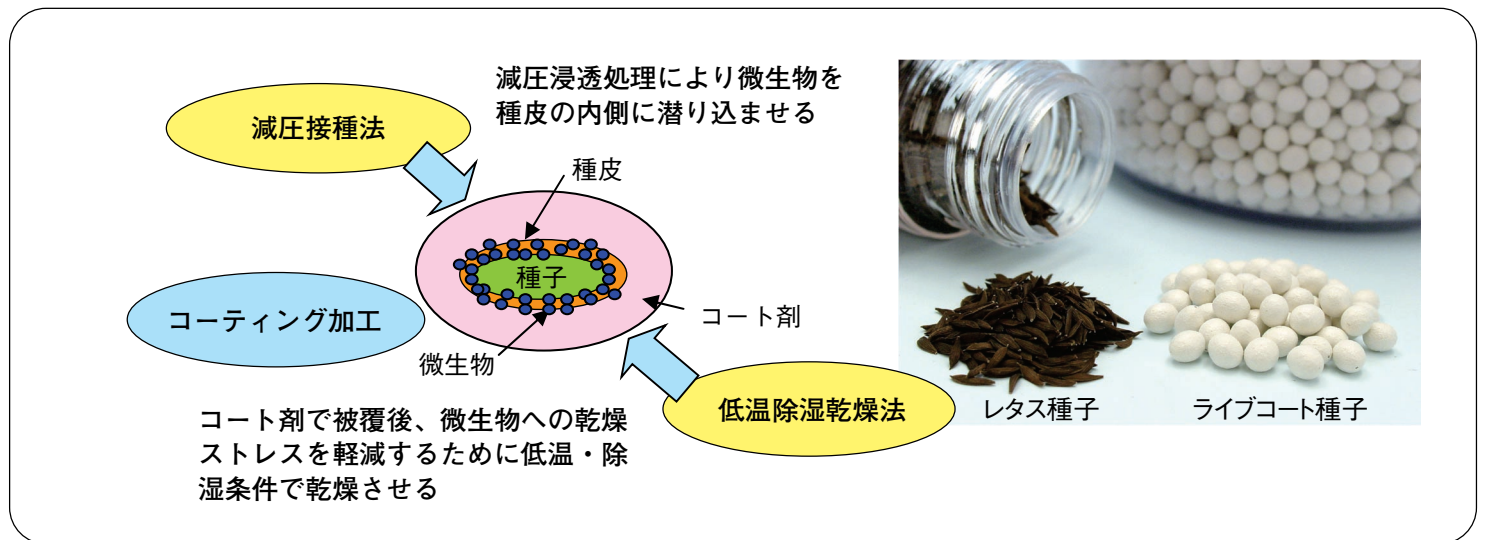


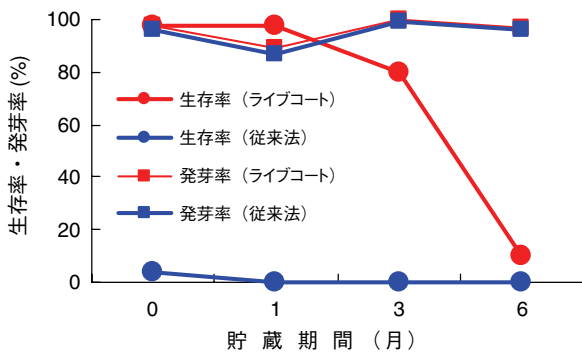
# 微生物を生きのまま種子にコーティングし保存可能にする技術の開発

Development of seed Pelletizing technology with living microorganism

微生物を生きのまま種子にコーティングし保存可能にする技術（ライブコート）は、レタスビッグベイン病防除を目指した研究から生まれた技術であり、有用微生物の利用法の一つです。レタスビッグベイン病では病原ウイルスを媒介する菌類に対して感染抑制効果のある内生細菌を使用していますが、この技術は微生物農薬の商品化時のコストダウンや防除作業の軽労化を可能にすることから、他の土壌病害を抑制する微生物の活用法としても有効な手段です。本成果は兵庫県立農林水産技術総合センターと(株)サカタのタネとの共同研究（「先端技術を活用した農林水産研究高度化事業（農林水産省）」）で得られました。



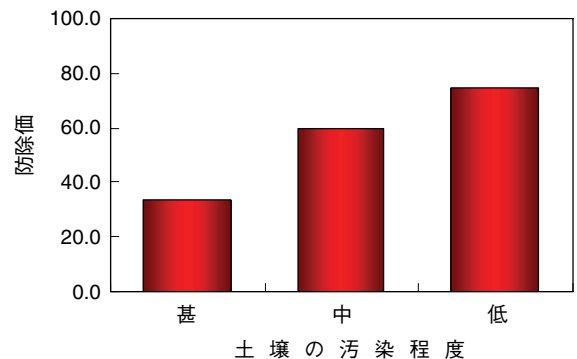
## 微生物の生存率を確認



貯蔵期間がコーティング種子に及ぼす影響

コーティング種子の発芽率はライブコートと従来法で変わりませんが、これまで不可能だった微生物の種子内長期保存が可能になりました。

## 防除効果を確認



内生細菌によるビッグベイン病防除効果

内生細菌をコーティングした種子を使用することで、レタスビッグベイン病の発病が抑えられます。その効果は、土壌の汚染程度が低いほど高くなります。